
魔術師黙示録

スナフキン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔術師黙示録

【Nコード】

N3393Y

【作者名】

スナフキン

【あらすじ】

現代に生き残る魔術師。彼らは自身の目的を叶える為、日々を研鑽に費やす。ある者は名誉の為、またある者は、未だ見ぬ理想の為。そんな平穩の中、突如始まる魔術師同士の争い。かつての同朋や友人、見知らぬ術者との戦闘。彼らが辿り着く『世界の答え』とは？

魔術師、一人（前書き）

何処からか発掘された、数年前に作りかけていた、あるゲームの原作を小説に再構成しました。

完成前に似たような、しかし完成度の高すぎるゲームが発売され、結局お蔵入りになった物です。

一応、場面毎での投稿にする予定なので、区切りに整合性が無いのはご容赦ください。

魔術師、一人

魔術。中世期のヨーロッパ諸国において、一流のペテンと評されたオカルト。確かに、それが何であるのか理解出来ない人々にとつて、魔術などは『理解に値しない、不確かな物』と言えるだろう。気が付けば魔術師という職業は鳴りを潜め、自らそれを公言する人間は、只一人として存在しなくなった。

西暦2030年、世界中の学者らによって、あらゆるオカルトが否定されてきた現代。『科学によって証明出来る物は、オカルトには属さない』、それが一般的な思考回路へとなっていた。しかし、一般的であるという事は、それに逆行する存在もまた存在するというのが、世の常である。

「やれやれ、またオカルトの否定番組かよ……。いい加減、政府の広報も邪魔になってきたな。」

昼食後のコーヒーを飲みつつ、少年は一人ごちた。うんざりだと言つようにテレビを消し、カップを傾ける。

「桜花、俺は工房に行ってくる。時間が出来たら手伝ってくれ。」

「はい、師匠。時間が出来たら、ですね。」

厨房で後片付けをしていた少女に声を掛け、少年は部屋を後にした。師匠と呼んでいるが、二人は師弟関係ではない。そもそも、通常であれば逆の立場となる筈の実力である。少女がそういった呼び方をしているのは、自分が彼の使い魔である為だ。

使い魔、そう呼ばれる存在がいる。通例、使い魔とは魔力で呼び出し、具現化させた精霊のような物だ。鳥獣の類がそれに該当し、姿もそれに準じるのが一般的である。

しかし、少女は人型をしており、その佇まいは人間そのものである。いや、事実人間なのだった。かつて存在した、ヨーロッパ地方に伝わる魔女である。

そう、魔術は実在するのである。文明の発達と共にその地位は下落してきたが、かつては奇跡の業とも評された、れっきとした技術なのだった。

人間の文明進化により、奇跡と呼ばれた物はその殆どが衰退しており、一部を除いた魔術は、単なる『手遊び』へとその地位を落としてしまった。火を点ける魔術はライターへ、空を飛ぶ魔術は飛行機やヘリ、というのが現状だ。

それでも魔術を学ぼう、神秘へと至ろうとする者は数多く存在し、様々な国に於いてその教育機関が設置・準備されているという事実がある。彼らもその所属であるが、日本国内のそれとはまた違う国に住んでいる。本来、二人ともそういった場所に属するべきではないのではあるが……。

「それにしても、マスターは何を考えて……？ 私一人ならまだしも、あのような人物まで召喚するなんて。それはまあ、魔術的な防備と肉体的な防備、二つを揃える理由は分かりますが。よりもよって、アレを召喚するなんて……。」

今はいない人物を思い浮かべ、思索する少女。魔術師としては最高クラスと評される彼女ではあるが、物理的な格闘はほぼ不可能である。元々は王族の娘であった彼女には、そのようなスキルは求められていないのだった。

かつての英雄、それを二人も召喚・使役するという魔術は、傍から見ればかなりの荒業である。精霊程度の召喚でさえ、鍛えられた魔術師でさえ、一日二日が限度であり、それ以上は行使しないというのが通常である。そもそも、死んだ人間に肉体を与え、かつ身辺に置くという時点で、かなりの魔力を必要とする。

例えるなら、10しか保存出来ない器で、100を必要とするエンジンを回すような物だ。保存する側は常に全開でも、エンジンは出力不足となる。だが少年は、その問題点を一つの荒業で無視する事に成功した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3393y/>

魔術師黙示録

2011年11月8日06時19分発行